

五戸総合病院での研修を終えて

令和3年11月

順天堂大学浦安病院初期研修医2年 森 亮貴

大学病院で研修をしている私にとって、地域の市中病院、さらには青森という地は全く想像がつかず不安でした。しかしこの1か月はとても充実しておりこの病院で研修を行うことができ本当によかったと思います。

内科外来を行うのは初めての経験であり想像以上に難しかったのを覚えています。例えば高血圧一つをとっても、今の薬をそのまま継続していいのか、変更した場合は次回いつフォローしたほうがいいのか、その時はどんな検査を行おうか。患者さんの生活背景も含めて考える良い機会となりました。特に印象に残っているのは食事摂取困難でご家族に連れてこられた高齢女性の方でした。発熱などの症状はなく外来通院は可能ではありましたが、病院と自宅の距離は離れており頻回の通院は難しく入院としたほうがいいのか非常に悩みました。最終的に入院によってADLや認知機能が低下するリスクも考慮し外来通院とし栄養補助食を試してみることにしました。こういった経験を初期研修のうちから経験しておくのはとても大切だと感じました。またこの1か月のうちに訪問診療もたくさん行かせていただき病院に通院することができない患者さんの実態とできる医療行為が限られているなかで何を行うか学ばせていただきました。大学病院では身体所見や採血データばかりを見ていて患者さん自身を見ていなかったなあと痛感させられました。

また週3回あった内視鏡の見学もとてもためになりました。実際に内視鏡に触れるのは初めてではじめは動かし方もわからなかったのですが模型などで練習をさせていただき腸管の構造なども理解することができました。

他にも脳外科外来、24時間持続型の血糖測定器の使用、役場での多職種会議などたくさんの方の事を経験させていただきました。安藤先生、新井田先生、佐藤先生、深瀬先生及び他科の先生方、医療スタッフの皆様には大変お世話になりました。1か月という短い期間でしたが本当にありがとうございました。